

2019年(令和元年)
6月22日号

No.1956

毎週土曜日発行
1ヶ月 1,000円

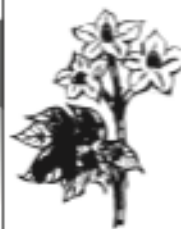
情報提供、お知らせ等、お気遣いご連絡を
090-4877-5754
md.korogi@gmail.com

OKA NO MACHI BIEI WEEKLY

びえい新聞

発行所/びえい新聞

美瑛町西町1丁目/ ☎92-1305
FAX 92-4461



靖国神社御創立150周年記念事業で道代表に選出 南正剛氏が「氷裂技法の『さくら陶板』を奉納



「氷裂」の技法による桜の作品を奉納した。「日本が誇る伝統と文化、過去から未来へつなぐ御祭神への祈り」を込めた、南氏の作品を含む

平和への願いを込めて、英霊にゆかりのある故郷の土を用いた陶芸作品で慰霊。靖国神社では、御創立150周年記念事業のひとつとして、参拝者を本殿に誘導しながら慰霊の心にふれる空間を創出する「いさぎないプロジェクト」を実施。境内外苑の参道北側に「慰霊の庭」を整備し、全国から奉納された「さくら陶板」を設置し本殿への道標とした。さくら陶板は、47都道府県から各1人ずつ、地域を代表する陶芸家に桜の花弁をモチーフとした作品の制作を依頼。全国各地から集まった英霊たちの鎮魂への思いを込め、故郷の土を用い現地の窯で制作することが条件とされた。

北海道からは美瑛町白金の皆空窯の南正剛氏が代表として選ばれ作陶。代表作

全国各地からの47基の「さくら陶板」は、6月12日に靖国神社で執り行われた落成記念式典でお披露目、一般公開されている。夜には、陶板毎に取り付けられたLEDライトで美しく照らされる。ちなみに「靖国神社には全国からの246万8千余柱の神霊が祀られおり、中でも北海道が最も多い」とのこと。鎮魂の意義も大きい。

式典には、制作者の南氏も招待。日展で2回連続の特選を受賞、北海道の風土を活かした独自の技法が全国でも高い評価を得ている南氏だが、今回のさくら陶板の作陶も一流の陶芸家の証となる名誉。「陶芸を続けてきた結果で、うれしかったし光栄なこと」と笑顔を見せた。同じ桜の花弁をモチーフにしたがらも、それ

ぞれご当地のイメージが作品に施されており、色や模様などは様々。そのような中で、「氷裂」の技法を用いた南氏の作品は「桜の雰囲気」が最もよく表現されている」と高評価を得ている。各作家による桜の陶板の一片は、各都道府県の護国神社にも贈呈。北海道では、函館護国神社、札幌護国神社、北海道護国神社にそれぞれ南氏の作品が贈られる。

井上萬二氏(佐賀県)や原清氏(埼玉県)といった人間国宝の作家も手掛けた「さくら陶板」。その中の一人として、美瑛町の陶芸作家の南氏が選ばれたのは、町にとっても名誉なこと。北海道のみならず国内屈指の陶芸家として評価を高めたが、南氏は「まだ何かできるのではないかと常に思っている」と、技術のさらなる高みを求め前を向く。厳選された

美瑛町のオリジナル商品「ビエイティフル」には、南正剛氏による「氷裂」シリーズの陶器と共に、パートナーの南泉氏による陶器「夢叶蝶」も認定。まちの魅力を伝える作品となっている。一方で、子ども陶芸展や陶芸教室をはじめ、陶芸の魅力を伝える教育活動にも力を注ぐ。陶芸による地域の活力づくりの中心となる活躍に、これからも注目したい。



写真は本人撮影